

佐賀県の地震活動概況 (2024年11月)

令和6年12月4日
佐賀地方気象台

【11月の地震活動概況】

11月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震は1回(下図領域外)でした(10月は0回)。

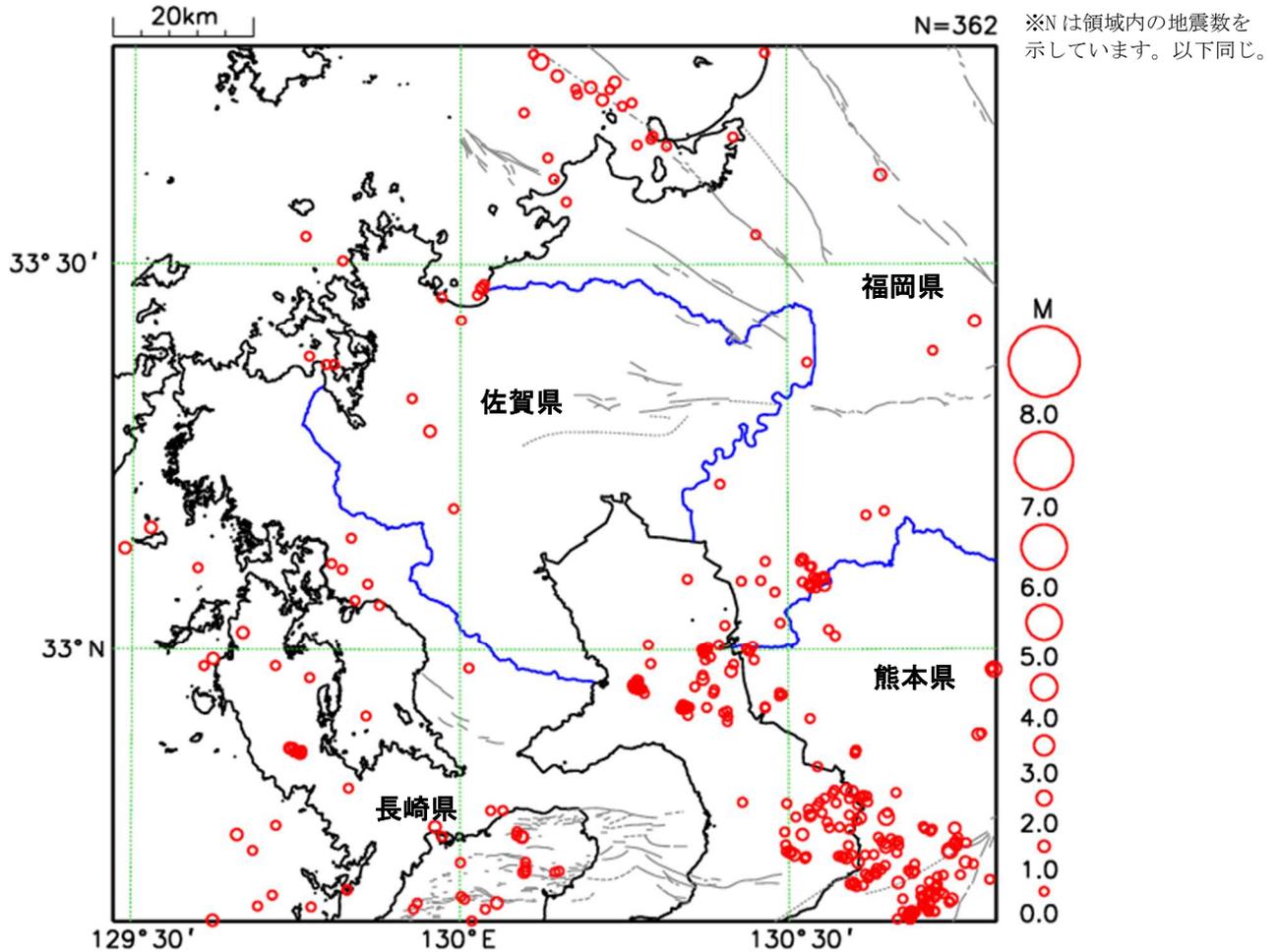


図1 震央分布図(2024年11月1日~30日、深さ30km以浅、 $M \geq 0.0$)
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

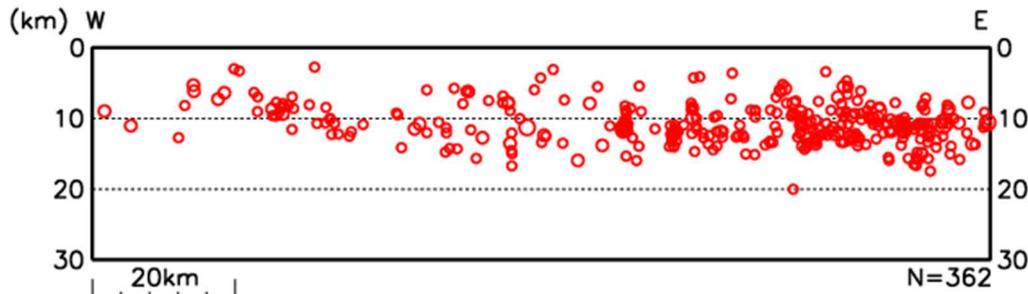


図2 断面図(2024年11月1日~30日、深さ30km以浅)
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

奄美大島北東沖 (1 頁震央分布図領域外)

17 日 21 時 16 分に奄美大島北東沖で M5.9 の地震が発生し、鹿児島県奄美市で震度 3 を観測したほか、九州地方、中国地方、四国地方で震度 2~1 を観測しました。

佐賀県では、上峰町、白石町で震度 1 を観測しました (図 3、表 1)。

今回の地震の震央付近 (図 4 領域 a) で発生した地震により佐賀県で震度 1 以上を観測したのは、地方公共団体 (佐賀県) の震度データの活用を開始した 2001 年 3 月 22 日以降では今回が初めてです (図 4~図 5)。

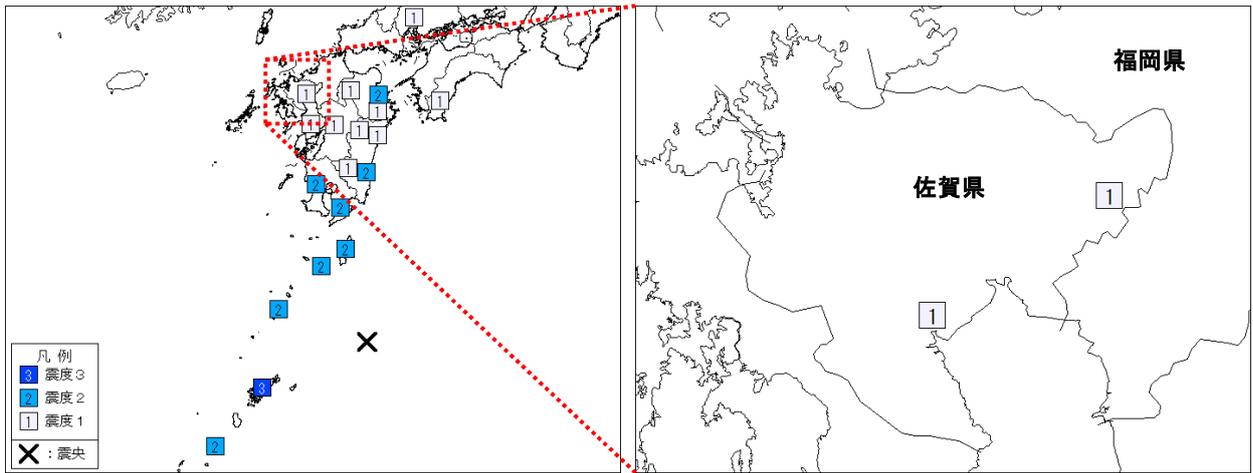


図 3 震度分布図 17 日 21 時 16 分 M5.9
(左図は地域別、右図は観測点別)

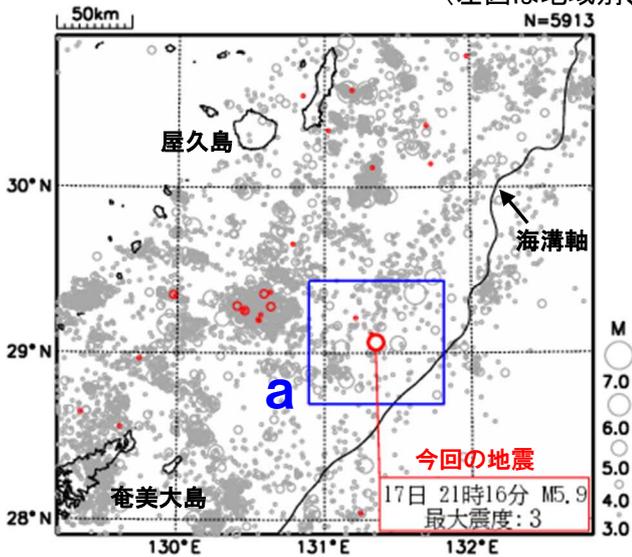


図 4 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日~2024 年 11 月 30 日、
深さ 0~100km M≥3.0)

※2024 年 11 月の地震を赤色で表示

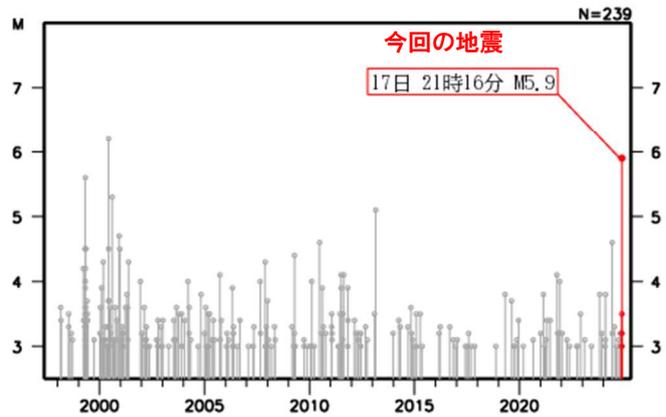


図 5 図 4 領域 a の地震活動経過図

表 1 佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震 (2024 年 11 月 1 日~30 日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
11 月 17 日 21 時 16 分	奄美大島北東沖	29° 03.8' N	131° 21.0' E	80km	M5.9
佐賀県	震度 1 : 上峰町坊所*, 白石町有明*				

- ・「*」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

津波情報等に活用する観測地点の追加について

～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沖合システムの活用開始～

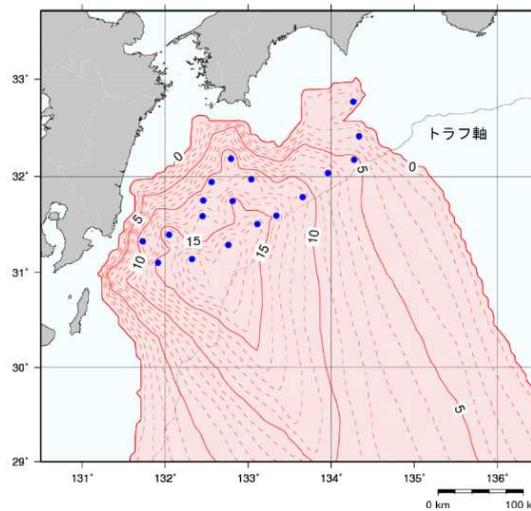
気象庁では、津波警報等の更新、津波情報の発表の迅速化や精度向上を図るため、「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沖合システムの津波観測データの活用を開始しました。

気象庁は、関係機関の協力も得て、沿岸の津波観測点や沖合に設置された海底津波計及び海底地震計の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しています。

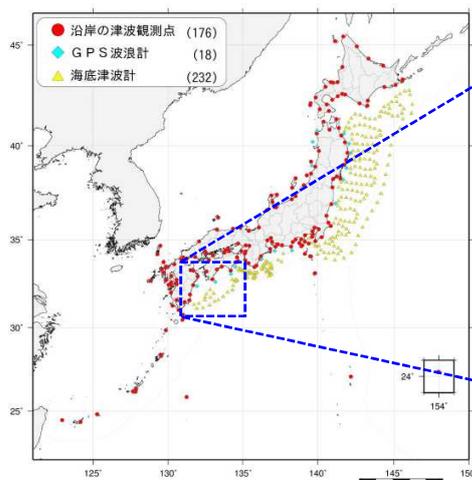
国立研究開発法人防災科学技術研究所は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」（※）を高知県沖から日向灘の海底に整備しています。このうち、7月に整備完了したN-net沖合システムについて、18地点に設置した地震計及び津波計による観測を行っています。

今般、気象庁において、N-net沖合システムの津波計についてデータの品質確認等を行い、令和6年11月21日12時から津波情報等への活用を開始しました。これにより、高知県から宮崎県にかけての沖合の津波の検知が最大で約20分早くなることから、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られます。

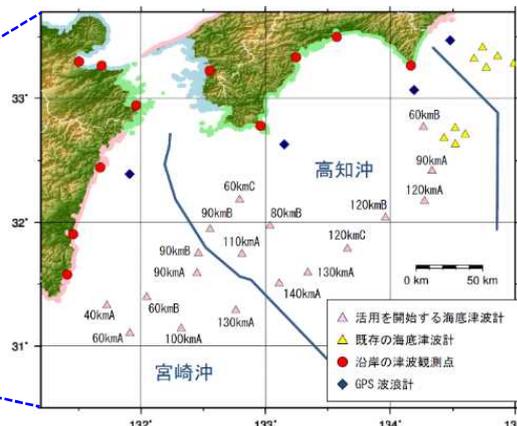
※「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」は、南海トラフ地震の想定震源域のうち観測網が設置されていない西側の海域（高知県沖から日向灘）に整備中のケーブル式海底地震津波観測システムで、沖合システムと沿岸システムからなります。



N-net 沖合システムの活用開始によって津波検知がより早くなる時間（単位：分）
青点は今回活用開始した津波観測点を示す。今回の観測地点の活用開始によって、赤く塗った領域で発生した津波の検知が現在より早くなる。



津波の観測値を発表する津波観測点



津波情報への活用を開始した海底津波計の分布図
※活用を開始した海底津波計の地点名称は「〇〇沖」を省略して記載しています。

詳細については以下のホームページをご覧ください

気象庁 「津波情報等に活用する観測地点の追加について」
https://www.jma.go.jp/jma/press/2411/14a/20241114_N-net.html
防災科学技術研究所 「南海トラフ海底地震津波観測網：N-net」
<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>